

# うな井の発明者は 茨城出身の豪商・大久保今助

龍ヶ崎市牛久沼

常陸太田市亀作出身の大久保今助(今輔)という江戸時代中期に活躍した豪商がいました。ままこいじめにあつた今助は少年期に家出し江戸へと向かい、そこで成功を収め「今太閤」と称されるほどの大富豪になりました。

その今助が郷里の亀作へ帰郷する途中、牛久沼のほとりへとやってきました。当時は水戸街道を歩くよりも牛久沼の船を使つた方が早く目的地に着くことが出来たのです。沼べりに到着した今助は、茶屋でウナギのかば焼きとこはんを頼みました。出来上がって食べようとしたところ「船が出るぞー」の掛け声が聞こえました。

今助は慌ててかば焼きの皿とどんぶりを借りたまま、船の上でそのかば焼きをどんぶりにかぶせて対岸へと到着しました。



そこで、こはんの上に乗ったウナギのかば焼きを食べると、こはんとうなぎが絶妙に絡み合い、極上の味に酔いしれたと言います。これが今の「うな井」の発祥になったのです。

その後、「うな井」がどう広まったかについては諸説あるようですが、今助は江戸で歌舞伎の中村座のパトロンとなり、三代目坂東三津五郎と上方のスター・中村歌右衛門の共演などを実現させたほどの歌舞伎好き。

そこで、芝居小屋でこの「うな井」を普及させたという説もあります。江戸から全国の庶民に広がったと言います。

今でもウナギの美味しいお店が並ぶ牛久沼周辺は、いずれも名店ぞろい。「串打ち三年、割り八年、焼きは一生」と言われる職人の技で生み出される「うな井」。発祥の地で、夏バテ効果に味わってみてはいかがでしょうか。

〈参考文献〉宮内政連「俗事百工起源」、大島伯鶴「講談」(天当たり大福帳)ほか

## 今年は夏の「土用の丑の日」が2回!!

**二の丑** 夏の土用は太陽黄経が117度から135度(立秋)の前日までと定義され、平均18.82日間(18日:19日=18%:82%)ある。19日の年の場合、土用の入りから7日以内に丑の日があると、土用のうちにもう1度丑の日が巡ってくる。これが二の丑であり、今年はその年にあたります。  
◎二の丑は8月3日



【問い合わせ】龍ヶ崎市政策推進部まちづくり推進課 TEL.0297-60-1553  
【所在地】龍ヶ崎市内牛久沼の国道6号沿い  
【アクセス】JR常磐線佐貫駅から車で5分、国道6号沿いの牛久沼湖畔に現在6件ほどが営業中

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

# ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>